

様式1

大学等名	鹿児島国際大学
プログラム名	鹿児島国際大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

科目「データサイエンス・AI入門」2単位と科目「情報処理」2単位の計4単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

4 単位

履修必須の有無

令和8年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス・AI入門	2	○	○	○					
情報処理	2	○	○						

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス・AI入門	2	○	○	○					
情報処理	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス・AI入門	2	○	○	○					
情報処理	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス・AI入門	2	○	○	○					
情報処理	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス・AI入門	2	○	○	○	○						
情報処理	2	○	○	○	○						
確率と統計	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
確率と統計	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・計算機の処理能力の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス・AI入門」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0「データサイエンス・AI入門」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンス・AI入門」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「データサイエンス・AI入門」(1回目、2回目) ・データ量の増加「データサイエンス・AI入門」(2回目) ・AI「データサイエンス・AI入門」(3回目) ・人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス・AI入門」(3回目) ・データを起点としたものの見方「情報処理」(5回目、7回目、9回目、12回目、15回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル)「データサイエンス・AI入門」(2回目、3回目、4回目) ・AI最新技術の活用例(敵対的生成ネットワーク)「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス・AI入門」(15回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス・AI入門」(3回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス・AI入門」(4回目) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション)「データサイエンス・AI入門」(4回目) ・構造化データ「データサイエンス・AI入門」(14回目) ・1次データ「情報処理」(5回目) ・2次データ「情報処理」(7回目、9回目、12回目、15回目) ・構造化データ「情報処理」(8回目、14回目) ・非構造化データ(文章など)「情報処理」(1回目、3回目) ・非構造化データ(画像など)「情報処理」(2回目)
	1-3	・データ・AI利活用の広がり「データサイエンス・AI入門」(2回目) ・販売「データサイエンス・AI入門」(2回目) ・マーケティング「データサイエンス・AI入門」(15回目) ・データ活用領域の広がり(消費など)「情報処理」(7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目、15回目) ・データ活用領域の広がり(文化活動など)「情報処理」(8回目) ・販売、マーケティング、サービスなど「情報処理」(7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目、15回目) ・計画策定、判断支援など「情報処理」(5回目、12回目、15回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることによって価値を創出するもの	1-4	・自動化技術「データサイエンス・AI入門」(1回目) ・認識技術「データサイエンス・AI入門」(2回目) ・ルールベース「データサイエンス・AI入門」(2回目) ・非構造化データ処理: 言語処理「データサイエンス・AI入門」(4回目) ・今のAIに出来ることと出来ないこと「データサイエンス・AI入門」(4回目) ・データの可視化: 関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・AIとビッグデータ「データサイエンス・AI入門」(4回目) ・データ解析: 予測「データサイエンス・AI入門」(5回目、9回目、10回目、11回目、12回目) ・データ解析: 予測、シミュレーションなど「情報処理」(5回目、7回目、9回目、12回目、15回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理」(7回目、12回目、13回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像など「情報処理」(1回目、2回目、3回目)
	1-5	・流通、製造、インフラにおけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス・AI入門」(1回目、2回目) ・サービスにおけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス・AI入門」(13回目) ・データサイエンスのサイクル(データ解析と推論)「データサイエンス・AI入門」(12回目) ・データ・AI利活用事例紹介「データサイエンス・AI入門」(13回目) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報処理」(5回目、7回目、9回目、12回目、15回目)

(4)活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・EU一般データ保護規則(GDPR)「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・AIサービスの責任論「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・忘れられる権利「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・オプトアウト「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データサイエンス・AI入門」(7回目) ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理」(1回目～15回目) ・個人情報保護「情報処理」(1回目～15回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理」(1回目～15回目)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス・AI入門」(8回目) ・悪意のある情報搾取「データサイエンス・AI入門」(8回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス・AI入門」(8回目) ・パスワード「データサイエンス・AI入門」(8回目) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報処理」(1回目～15回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報処理」(1回目～15回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・統計情報の正しい理解(誇張表示に惑わされない)「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・データの分布(ヒストグラム)「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・データの分布(度数分布表、相対度数分布表、ヒストグラム)「確率と統計」(2回目) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・相関と因果(相関係数)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関)「データサイエンス・AI入門」(9回目) ・層別の必要なデータ「データサイエンス・AI入門」(9回目) ・相関と因果「データサイエンス・AI入門」(11回目) ・データの種類(量的変数)「情報処理」(4回目、5回目、6回目、7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目、15回目) ・データの種類(質的変数)「情報処理」(8回目、11回目) ・代表値(平均値)「情報処理」(4回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報処理」(5回目、7回目、9回目、12回目、15回目) ・データの種類(量的変数、質的変数)「確率と統計」(2回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均、中央値、最頻値)「確率と統計」(2回目、3回目) ・データのばらつき(分散、加重平均、標準偏差、偏差値)「確率と統計」(4回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「確率と統計」(5回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出)「確率と統計」(12回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・データ表現(散布図)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・データの比較(処理の前後の比較)「データサイエンス・AI入門」(11回目) ・優れた可視化事例の紹介「データサイエンス・AI入門」(5回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理」(4回目、5回目、6回目、7回目、12回目、13回目) ・データの図表表現(チャート化)「情報処理」(12回目、13回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理」(5回目) ・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図)「確率と統計」(2回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「データサイエンス・AI入門」(6回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データサイエンス・AI入門」(6回目、9回目、10回目) ・表形式のデータ(csv)「データサイエンス・AI入門」(15回目) ・データの集計(和、平均)「情報処理」(4回目) ・データの並び替え、ランキング「情報処理」(8回目、12回目、14回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「情報処理」(4回目、5回目、6回目、7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目、15回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「確率と統計」6回目

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・AIおよびデータサイエンスについて説明することができる。
- ・データを正しく読み、科学的に説明することができる。
- ・スプレッドシートを使ってデータを加工しながら科学的に扱うことができる。
- ・AIを扱う上での留意事項を理解できる。
- ・データを扱う上での留意事項を自分事として理解できる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に同うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
・「データサイエンス・AI入門」の2回目において、データ・AIの活用領域として機械翻訳について取り上げた。機械翻訳の仕組みを説明し、実際にいくつかの翻訳サイトを使い、比較させた。 ・「データサイエンス・AI入門」の3回目において、画像生成AI「DALL-E3」を「Bingチャット」と「Bing Image Creator」で利用できることを紹介し、実際に使ってみせ、AI生成物の著作権についても説明した。 ・「データサイエンス・AI入門」の4回目では、ChatGTPを取り上げ、その仕組みやプロンプトの書き方について説明し、実際に使ってみせた。また、ChatGPTの問題点について触れ、回答が必ずしも真実とは限らないこと、出力結果を使う場合は出展を明らかにすることなどを注意した。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 1759 人 女性 1159 人 (合計 2918 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	1,346	320	1,460	316	289											316	22%
福祉社会学部	903	210	870	114	103											114	13%
国際文化学部	588	145	610	133	109											133	22%
看護学部	81	80	80	80	74											80	100%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	2,918	755	3,020	643	575	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	643	21%

大学等名 鹿児島国際大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 193 人 (非常勤) 79 人

② プログラムの授業を教えている教員数 13 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 小林 潤司

(役職名) 学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会

(責任者名) 吉留 久晴

(役職名) 副学長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会設置要領

⑥ 体制の目的

数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の運営・改善・進化を図ることを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

副学長 吉留久晴(児童学科 教授)
研究教育開発センター長 表正幸(経営学科 教授)
経営学科 教授 大久保幸夫
経済学科 准教授 池田亮一
経済学科 准教授 今村隼人
経営学科 講師 日高義浩
事務局長 緒方康久
総合企画部次長 田平和樹
研究教育開発センター事務室長 西田竜彦
教務課長 大里和博
就職キャリアセンター所長 今村憲一
情報処理センター事務室長 堀之内英人

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	21%	令和6年度予定	42%	令和7年度予定	65%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	3,020
具体的な計画					
「データサイエンス・AI入門」についての計画： 令和5年度：4学部5学科は履修指定(全員履修)科目、社会福祉学科と児童学科は選択科目としてスタート。 令和6年度：履修要項にプログラムを掲載し、新入生オリエンテーションで各学科長が説明する。社会福祉学科と児童学科の履修指定に向けた検討を開始する。 令和7年度：社会福祉学科と児童学科の履修指定に向け規程を改正する。 令和8年度：社会福祉学科と児童学科で履修指定を開始し、全学履修指定化の予定。 「情報処理」は、全学履修指定である。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和5年度のカリキュラム改正で、全学の共通教育科目に「データサイエンス・AI入門」「情報処理」「確率と統計」からなる「数理・データサイエンスAI」基礎科目区分を設け、学生全員が受講可能となる体制を整えた。特に、「情報処理」は全学履修指定、「データサイエンス・AI入門」は経済学科・経営学科・国際文化学科・音楽学科・看護学科で履修指定とした(福祉社会学科と児童学科では選択科目として履修できる)。 さらに、令和5年度には、学部・学科の垣根を超えた多様な学びを通して、広い視野と実践力を有する人材を養成することを目的に、5つの学部横断プログラムを設置した。その中の一つ「データサイエンス・AIプログラム」に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の3科目(データサイエンス・AI入門、情報処理、確率と統計)は含まれており、専門的にデータサイエンスを学びたい学生の基礎科目と位置づけられている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「数理・データサイエンス・AI教育プログラムの受講について」という案内文書を作成(令和6年度からは履修要項に掲載)し、プログラム履修対象となる新入生全員に配布するとともに、それをもとに新入生オリエンテーションにて学科長らが数理・データサイエンス・AI教育プログラムの受講についてその意義、専門との関連性などを説明を行い学生に周知している。特に、社会福祉学科・児童学科で「データサイエンス・AI入門」は選択科目のため、学科から受講を促している。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

できる限り多くの学生が履修できるように履修指定科目にしたり、選択科目では選択しやすい時間帯に開講している。また、多くの学生が受講できるよう授業はWiFi完備の一般教室で行い、学生がノートパソコン等を持参して授業に参加しやすい環境を整えている。さらに、LMSを使い毎時間小テストと課題を課すことで日々の学修を促すとともに、まとめとしての学期末レポートにより修得できる体制を作っている。

全学履修指定の「情報処理」の授業にはSAを配置し、PCの操作面で学生をサポートしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

質問にはできるだけ授業時間内に対応するようにしているが、授業時間外に質問がある場合、学生はLMSを使い質問し、担当教員がそれに回答する仕組みを整えている。授業内容の補足が必要になった場合は、LMSの授業掲示板を使って受講学生全員に告知している。また、週1回のオフィスアワーに担当教員が個別質問を受ける機会を設け、個別に学習指導を行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・評価運営委員会
(責任者名) 小林 潤司
(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	プログラムの履修・修得状況を、教務課において把握し、プログラム担当者と数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会において分析している。LMSの活用により、受講者毎の小テストの結果や課題への回答状況を把握することができる。 プログラムを構成する「データサイエンス・AI入門」と「情報処理」の初年度(令和5年度)の履修者数は、643人で入学人数に対する割合は83.7%と好調な滑り出しであった。一部の学部を除いての履修指定化、新入生ガイダンスでの学科長らによる履修の呼びかけ、および、時間割作成上の配慮などによるものと思われる。 修得状況については、575人が両単位を修得し、単位修得率は89.4%となり、良好であった。アンケートの結果などを踏まえ、授業内容の検討、教授法の改善に取り組む。
学修成果	プログラム担当者は、授業アンケート結果を使い授業を振り返りと学修成果について自己評価を行った。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会において、授業アンケートの記述回答を分析、授業内容の難易度、学生の理解度・ニーズなどを把握し、本教育プログラムの改善に活用している。また、学期末レポートから学生の関心・理解度を分析し、授業の改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムは、修了要件となる「情報処理」および「データサイエンス・AI入門」の2科目において、学生の学習内容の理解度を評価するために、アンケートを実施しており、担当者グループおよび数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会において学生の理解度を分析している。 「情報処理」は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)における「基礎」および「心得」に位置付けている。アンケート分析の結果、各項目において8割を超えており、本科目の目標は達成できているといえる。 また、「データサイエンス・AI入門」は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)における「導入」、「基礎」および「心得」に位置付けられている。アンケート分析の結果、各項目において8割を超えていることから、本科目の目標は達成できているといえる。 今後も教育内容と教育方法の改善について検討を深めていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「データサイエンス・AI入門」の受講生に対する学生アンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨について確認している。本アンケートにおいて、「この講義を友人や後輩の学生に推奨したいと思いますか」との問いに対し、「そう思う」が52%、「ややそう思う」が41%、計93%の学生が「推奨したい」と答えている。一方、6%の学生が「あまりそう思わない」、1%の学生が「そう思わない」と答えている。今後も多くの学生が他の学生に推奨したいと思うよう教育内容、教育方法、難易度について検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	科目「情報処理」については、従前より全学において履修指定科目である。一方、科目「データサイエンス・AI入門」は令和5年度から開講しており、7学科のうち5学科が履修指定科目、2学科は選択科目である。 本プログラムの担当者会議を開催し、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容について検討するとともに、「データサイエンス・AI入門」が選択科目になっている2学科については、各専門分野におけるデータサイエンス・AIの重要性・必要性を訴え履修を促すとともに、将来的には履修指定になるよう教務課や学科と協議していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、令和5年度新入生から実施しており、まだ卒業生を出していないためプログラム修了者の学外評価を得ていないが、プログラム修了者が卒業した後は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会と就職キャリアセンターが協力して、卒業1年後にプログラム修了者の進路先に対し調査を実施し、活躍状況、企業等の評価を得る予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	自己点検・評価運営委員会で本プログラムについて内容・手法について説明したが、外部評価委員から特筆すべき意見は出なかった。今後は、地元のIT関係企業やDXに取り組んでいる自治体や団体に赴き、本教育プログラムについての意見を聴取し、授業内容や手法の改善に活用したい。また、企業・自治体等と連携して実課題や実データを使った教材の開発なども行いたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	科目「情報処理」では、実データを使って、表やグラフを作成し、グループディスカッションなどを通してそれを分析するという実習を行うことで、データサイエンス等を学ぶ楽しさと意義を理解させている。科目「データサイエンス・AI入門」では、AIやデータサイエンスが社会・生活にどのように活用されているかを実例を示し、動画なども使い好奇心を促す授業にしている。また、確率や統計などの手法が実社会で役立っている事例を紹介し、数理を学ぶ意義を理解させている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	「情報処理」、「データサイエンス・AI入門」で実施した学生アンケート結果を参考に、「分かりやすさ」の観点から授業の内容の見直しを図るとともに、企業および自治体と連携して、授業に身近な課題および実データに基づく内容を取り入れることを検討する。また、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム(2024年2月改訂版)をもとに授業内容を見直し、生成AI等の活用を、注意点を踏まえたうえで、さらに促す授業にすることを検討する。

看護学部

授業科目名	情報処理	開講学期	前期	単位	2	年次配当	1 年			
担当者名	表 正幸									
ナンバリングコード	B_GEN100076									
使用言語	日本語で行う授業									
授業形態	一般講義									
〈授業のテーマ〉	情報と情報技術に関する基礎的知識と技術の習得									
〈授業の概要及び方法〉										
文系か理系かにかかわらず、また、専門であるかないかにかかわらず、今後のデジタル社会においては、数理・データサイエンス・AI を日常生活や仕事等の場で実際に道具として上手に活用することが出来る基礎的素養を身に付けなければならない。そのために本講義では、ワープロソフト（WORD）と表計算ソフト（EXCEL）の基礎的な知識とそれらを使うためのスキルを身に付けた上で、実データを使って、表やグラフを作成し、グループディスカッションなどでそれを分析するという実習を行う。また、OS（Windows 10）や情報ネットワーク社会における情報セキュリティについても学ぶ。										
〈キーワード〉	Windows、実データ、WORD、EXCEL、情報セキュリティ、アクティブ・ラーニング									
授業の到達目標				観 点						
				A	B	C	D	E	F	G
1	Excel で加工されたデータを正しく読むことができる			○	○		○			
2	Excel で加工されたデータを説明することができる			○	○		○			
3	Excel を使って加工しながらデータを扱うことができる			○			○			
4	データ・AI を扱う上での留意事項を理解できる			○	○	○	○			
5	データを守る上での留意事項を自分事として理解できる				○	○	○			
【各到達目標に含まれる主要な観点】 A. 知識・技能の観点 B. 思考・判断・表現の観点 C. 関心・意欲・態度の観点 D. キャリアデザインの観点										
E		F		G		H				
授業計画	授 業 内 容									
	第1回 LiveCampus U（LCU）の使い方									
	・学外からのLCUへのアクセス方法									
	・LCUのアプリのインストール									
	・課題のダウンロードやアップロードの仕方									
	・レポート「経済史入門レポート ユーロの導入と発展について」の作成（W-1～W-17）									
	第2回 レポート「経済史入門レポート ユーロの導入と発展について」の完成（W-18～W-35）									
	第3回 リーフレット「卒論発表会」の作成（W-37～W-45）									
	・長文のレポート「若者における方言の認識について（調査）」の作成（W-46～W-64）									
	第4回 EXCELを使った表「2019年降水量データ」の作成（E-1～E-16）									
	・相対参照を使った表「アルバイト週給計算」の作成（E-18～E-19）									
	・絶対参照を使った表「アルバイト週給計算」の作成（E-19～E-20）									
	第5回 実データをもとに相対参照と絶対参照を使った表の作成と分析									
第6回 書式のコピーと行と列の入れ替えなどをした表「23区東部人口統計」の作成（E-21～E-22）										
・「売上明細一覧（8月分）」の印刷（E-24～E-28）										
・グラフを使った表「2019年降水量データ」の作成（E-30～E-35）										
第7回 実データをもとにグラフを使った表の作成と分析										
第8回 データベース「横浜市沿線別住宅情報」の作成（E-36～E-45）										
・データ「セミナー実施状況」の集計（E-46～E-50）										
第9回 実データをもとにデータベースの作成と分析										
第10回 複数のシートを操作した表「売上明細表」の作成（E-51～E-54）										

・ユーザー定義の表示形式を設定した表「上期売上実績」の作成（E-71～E-75） 第11回 条件付き書式を設定した表「社員別売上実」の作成（E-76～E-79） ・関数を使った表「社員別売上実績」の作成（E-55～E-70） 第12回 実データをもとに関数を使った表の作成と分析 第13回 複合グラフを使った表「当社売上高と競合店舗数」の作成（E-80～E-84） ・円グラフやスパークラインを使った表「飲料分類売上推移」の作成（E-85～E-90） 第14回 ピボットテーブルを使った表「売上明細表」の作成（E-91～E-97） 第15回 実データをもとにピボットテーブルを使った表の作成と分析 ※毎回、「情報モラル&情報セキュリティ」の小テストを行う。								
事前・事後学修等の内容		授業を始めるにあたって、Windows パソコンの初歩的な操作（マウスの操作、ファイル保存、キーボード入力など）ができることが望ましいので、パソコンの知識がほとんどないという学生については、学内の自習用パソコン等で操作の練習をしておいてください。						
事前・事後学修等の時間		4 時間						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法		授業内で講評・解説の時間を設ける						
使用教材など	著書名	教科書名	出版社	I S B N	価格	税込税抜	発注冊数	発注方法
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『情報リテラシー Windows 10 / Office 2019 対応』	FOM 出版		2200	Y	50	Y
その他の使用教材								
評価方法			設定した到達目標					評価割合 (%)
			1	2	3	4	5	
期末試験								
期末レポート			○	○	○	○	○	60
平常点			○	○	○	○	○	40
履修上の留意事項・授業時間外の対応		・原則として、授業への出席回数が3分の2に満たない受講生は、単位取得できないので注意すること。 ・質問や相談があれば、jhpvo@eco.iuk.ac.jp までメールをくれるか、 http://www5.synapse.ne.jp/elpro/officehour.html を見て気軽に研究室（7号館5階518）へ。						
前年度の授業評価		今年度より担当						

看護学部

授業科目名	データサイエンス・AI 入門				開講学期	前期	単位	2	年次配当	1 年				
担当者名	大久保 幸夫													
ナンバリングコード	B_GEN100076													
使用言語	日本語で行う授業													
授業形態	一般講義													
〈授業のテーマ〉	データサイエンス・AI に関する基礎的知識と技術の習得													
〈授業の概要及び方法〉 文系か理系かにかかわらず、また、専門であるかないかにかかわらず、今後のデジタル社会においては、数理・データサイエンス・AI を日常生活や仕事等の場で実際に道具の1つとして基礎的素養を身に付けなければならない。そのために本講義では、データサイエンスならびにAI の基礎的な知識とそれらを使うためのリテラシーを身に付けた上で、AI やデータサイエンスについて学ぶ。														
〈キーワード〉	データサイエンス、AI、リテラシー、アクティブ・ラーニング													
授業の到達目標							観 点							
							A	B	C	D	E	F	G	H
1	AI およびデータサイエンスを説明することができる						○	○	○	○				
2	データを見て、科学的に扱うことができる						○	○	○					
3	データを見て、科学的に説明することができる						○	○	○					
4	AI を扱う上での留意事項を理解できる						○	○	○					
5	データを扱う上での留意事項を自分事として理解できる						○	○	○	○				
【各到達目標に含まれる主要な観点】 A. 知識・技能の観点 B. 思考・判断・表現の観点 C. 関心・意欲・態度の観点 D. キャリアデザインの観点														
E			F			G			H					
授業計画	授 業 内 容													
	第01回 AI リテラシーとは													
	第02回 社会でどのような変化が起きているか													
	第03回 社会でどのようなデータが活用されているか													
	第04回 データ・AI を何に使えるか													
	第05回 データ・AI の技術													
	第06回 データを読み、説明し、扱う													
	第07回 データ・AI を扱うときに注意すること													
	第08回 データ・AI にまつわるセキュリティ													
	第09回 データと統計学													
	第10回 データの特徴をつかむ													
	第11回 データの関係性をつかむ													
	第12回 アルゴリズムとは何か													
	第13回 データの構造とプログラミング													
	第14回 データを上手に扱うには													
	第15回 まとめ													
事前・事後学修等の内容		・ 毎授業後に当日の概要・ポイント等をまとめ、小レポートをLCUより提出すること。												
事前・事後学修等の時間		・ 4 時間												
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法		・ 小テスト終了後に解答・解説を行う。小レポートについてはLCUで対応する。												
使用教材など		著書名	教科書名	出版社	I S B N	価格	税込税抜	発注冊数	発注方法					

その他の使用教材	(1) 岡島裕史他著：『はじめての AI リテラシー』、技術評論社 (2) 高橋弘毅他著：『データサイエンスリテラシー』、実教出版					
評価方法	設定した到達目標					評価割合 (%)
	1	2	3	4	5	
期末試験						
期末レポート	○	○	○	○	○	60
小レポート・小テスト	○	○	○	○	○	40
履修上の留意事項・ 授業時間外の対応	・授業時数の 3 分の 2 以上出席しなかった場合、原則として評価は「無効」とします。 ・授業時間外の対応については、授業時に指示します。 ・授業時間外の対応については、授業後や LCU（個別質問）で対応します。					
前年度の授業評価	・本年度より担当					

経済学部

授業科目名	確率と統計	開講学期	前期	単位	2	年次配当	1 年				
担当者名	今村 隼人										
ナンバリングコード	B_GEN104170										
使用言語	日本語で行う授業										
授業形態	一般講義										
〈授業のテーマ〉	統計学の考え方と確率論の基本について学ぶ										
〈授業の概要及び方法〉											
近年のコンピュータの発展に伴い、データの扱いに長けた人材の需要は年々高まってきている。本授業ではデータの要約や解釈に用いられる統計学の基本的な考え方と、その背後にある数学的な枠組み（確率論）について学ぶ。											
〈キーワード〉	統計学、回帰分析、推定、検定、確率論、										
授業の到達目標				観 点							
				A	B	C	D	E	F	G	H
1	データの代表値について理解している			○	○	○					
2	データの相関について理解している			○	○	○					
3	回帰分析の考え方を理解している			○	○	○					
4	推定・検定の考え方を理解している			○	○	○					
5											
【各到達目標に含まれる主要な観点】 A. 知識・技能の観点 B. 思考・判断・表現の観点 C. 関心・意欲・態度の観点 D. キャリアデザインの観点											
E		F		G		H					
授業計画	授 業 内 容										
	1.	授業の受け方、統計学・確率論の歴史									
	2.	データ・変数とその表現（変数の種類・尺度）									
	3.	データを表す値（平均・加重平均・中央値。最頻値）									
	4.	データを表す値（分散・標準偏差）									
	5.	散布図・共分散・相関係数									
	6.	単回帰分析・全変動の分解と決定係数									
	7.	推定の考え方（母集団と標本、抽出の方法、母平均の推定）									
	8.	標本平均の標本分布・標準誤差									
	9.	確率分布、母平均の信頼区間									
	10.	検定の考え方（仮説検定の目的、帰無仮説と対立仮説、臨界値の設定）									
	11.	母平均の両側検定、t 分布に基づく臨界点、p 値に基づく仮説検定									
	12.	母集団回帰式と標本回帰式、回帰分析での推定、単回帰分析									
	13.	回帰分析における仮説検定									
	14.	試験の予行練習									
	15.	期末試験									
※授業の進度によって内容が変わることがある。											
事前・事後学修等の内容		授業後に配布資料の例題を自身の力で最低限一周は解き直すこと。									
事前・事後学修等の時間		4 時間程度の予習・復習を行うこと。									
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法		LCU 及びメールを用いて行う。									
使用教材など	著書名	教科書名	出版社	I S B N	価格	税込税抜	発注冊数	発注方法			

その他の使用教材	参考書等については講義内でその都度紹介する。					
評価方法	設定した到達目標					評価割合 (%)
	1	2	3	4	5	
期末試験	○	○	○	○		100
期末レポート						
履修上の留意事項・ 授業時間外の対応	評価は第十五回の試験の得点によって決定する。					
	試験では授業で配布されるプリントを持ち込むことができる。					
	出題の範囲は第十四回「試験の予行練習」にて告知する。					
	やむを得ない事情から試験を受けられない学生について、試験のかわりにレポートなど別の課題を実施する。					
前年度の授業評価	今年度より担当					

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの受講について

国の施策である「AI 戦略 2019」では、2025 年までに「文理を問わず、全ての大学・高専生が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AI を習得」することを目標に掲げています。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」は、高度情報化社会（Society 5.0）において学生一人ひとりが今後求められるリテラシー（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である情報スキル、数理・データサイエンス・AI に関するスキルを修得することを目的とします。

大学では、この教育プログラム「データサイエンス・AI 入門」を前述のリテラシーを育成するための導入および基礎として位置づけています。データサイエンス・AI を活用し、適切なアルゴリズムを用いて科学的手法に基づいたデータ分析を行うことで、論理的な分析・課題解決ができるスキルが身につきます。そのことが、地域社会で求められている高度デジタル人材の 1 歩へとつながりますので、ぜひ履修・修得してください。

数理・データサイエンス・AI と各専門分野の関係：

- 経済・経営の分野では、AI を利用することで、業務の改善や高付加価値の製品開発、ビジネスモデル開発につながっています。このことが、グローバル化にもつながっています。
- 福祉および看護の分野では、複雑化する事務処理やビッグデータの分析・管理などについてデータサイエンス・AI の活用、介護ロボット等の導入が進められています。
- 教育の分野では、GIGA スクール構想に伴う「教育の情報化」が進められており、データサイエンスおよびAI の利活用が進められています。
- 芸術の分野では、クリエイティブな領域において「アイデア」・「素材」・「評価」などに数理・データサイエンス・AI が活用されはじめています。

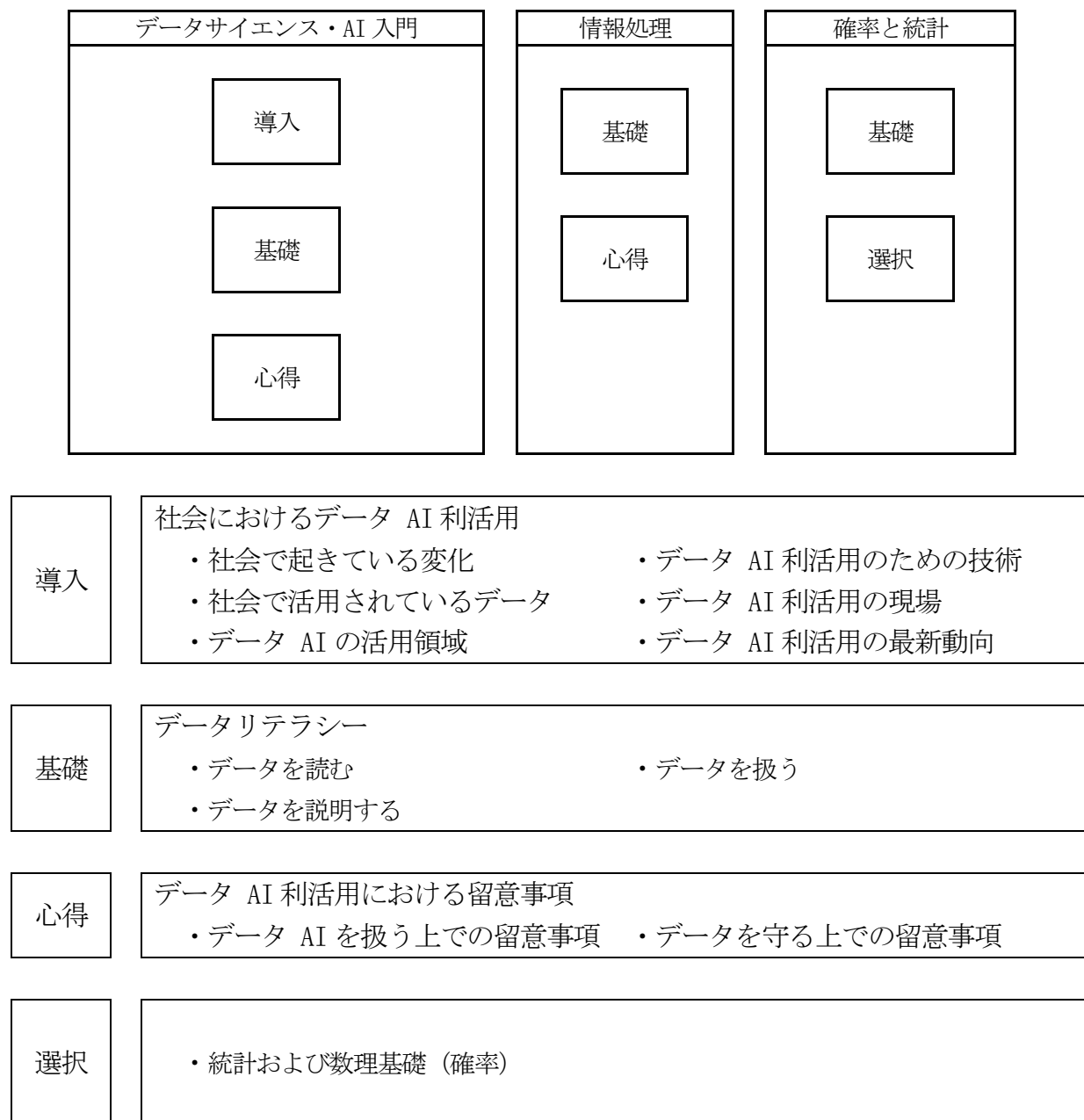
○経済学科・経営学科・国際文化学科・音楽学科・看護学科

科 目		年次	単位	修了単位数
履修指定科目	データサイエンス・AI 入門	1	2	4 単位
	情報処理	1	2	
選 択 科 目	確率と統計	1	2	

○社会福祉学科・児童学科

科 目		年次	単位	修了単位数
履修指定科目	情報処理	1	2	4 単位
選 択 科 目	データサイエンス・AI 入門	1	2	
	確率と統計	1	2	

・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」のカリキュラムイメージ



数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会設置要領

令和5年4月26日 制定

(目的)

第1条 数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「プログラム」という。）」の運営・改善・進化を図ることを目的とする。

(役割)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる役割を果たす。

- (1) プログラムを実施するための計画を定め、公表する。
- (2) プログラムの自己点検・評価を定期的の実施し、自己点検・評価運営委員会の承認を得て、自己点検・評価結果を公表する。
- (3) 自己点検・評価結果を踏まえ、必要に応じてプログラムを改善し、進化させる。
- (4) プログラムに関する各種情報を公表する。
- (5) その他、委員会が必要と認める事項を審議する。

(プログラム運営責任者)

第3条 プログラム運営責任者は、プログラムの運営について最終責任を負う者とし、学長をもって充てることとする。

(委員長)

第4条 委員長は、プログラム運営責任者を補佐し、プログラムの運営・改善・進化について本学全体を統括する実質的な責任と権限を持つ者とし、副学長をもって充てることとする。

(構成)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成し、委員長が委員会を招集し、その議長となる。

- (1) 副学長（委員長）
- (2) 研究教育開発センター長
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに係る授業科目担当者（専任教員）
- (4) 事務局長
- (5) 研究教育開発センター事務室長
- (6) 企画・国際課長
- (7) 教務課長
- (8) 就職キャリアセンター所長
- (9) 情報処理センター事務室長

2 委員会が必要と認めるときは、その他の職員を委員会に出席させることができる。

(委員会事務)

第6条 委員会に関する事務は、研究教育開発センター及び企画・国際課が担当する。

(要領の改廃)

第7条 この要領の改廃は、委員会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

附 則

この要領は、令和5年4月26日から施行する。ただし、令和5年4月1日から適用する。

鹿児島国際大学自己点検・評価規程

平成 16 年 5 月 26 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学校教育法第 109 条及び鹿児島国際大学学則第 2 条に基づき、鹿児島国際大学及び鹿児島国際大学大学院（以下「本学」という。）の教育研究の水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら行う点検・評価（以下「自己点検・評価」という。）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 本学は、自己点検・評価を実施するため、次の各号に掲げる組織により構成する。

- (1) 自己点検・評価運営委員会（以下「運営委員会」という。）
 - (2) 自己点検・評価実施部会（以下「実施部会」という。）
 - (3) 自己点検・評価実施委員会（以下「実施委員会」という。）
 - (4) 鹿児島国際大学事務組織規則に定める事務局（以下「事務局」という。）
- 2 実施部会は、企画部会、総務部会、教育研究部会、教務部会、学生支援部会及び産学官地域連携部会を置く。
- 3 実施委員会は、各学部・研究科及びその附属施設（以下「各学部・研究科」という。）に置く。

(運営委員会)

第 3 条 運営委員会は、内部質保証の推進に責任を負う組織として、自己点検・評価に関する基本方針を定め、実施部会を経て実施委員会及び事務局から報告された結果を総括し、本学の自己点検・評価報告書として取りまとめる。

- 2 運営委員会は、各学部・研究科及び事務局が実施する改善・向上に向けた取組みの指示及び支援を行うとともに、実施するにあたり必要な予算措置等を行う。
- 3 運営委員会は、学長、学長補佐、副学長、研究科長、学部長、学生総合支援センター長、学生部長、教務部長、研究教育開発センター長、産学官地域連携センター長、地域総合研究所長、図書館長、事務局長、事務局次長、総務部長及び総合企画部長をもって構成する。
- 4 運営委員会は、学長が委員長となり、これを招集し、その議長となる。
- 5 学長不在のときは、学長が指名する学長補佐又は副学長が職務を代行する。
- 6 運営委員会は、必要に応じて学内関係者の出席を求めることができる。
- 7 運営委員会は、必要に応じて学外者の出席を求め、意見を聴取することができる。

(実施部会)

第 4 条 実施部会は、運営委員会の意を受け、別表 1 に定める認証評価機関の基準に基づき、事務局が行う自己点検・評価を指導し、作業を確認、調整する。

- 2 実施部会は、事務局の報告を基に、適切性の検証を行いその経過及び結果を取りまとめ、運営委員会に報告する。
- 3 実施部会の構成員及び取りまとめ事務局は、別表 1 に定める。
- 4 部会長は、別表 1 の取りまとめ事務局の長とし、副部会長は、部会長が指名する。
- 5 実施部会は、必要に応じて関係者の出席を求めることができる。

(実施委員会)

第 5 条 実施委員会は、運営委員会の基本方針に基づき、各学部・研究科の活動について自己点検・評価シート及びカリキュラム・アセスメント・チェックリスト等を活用した自己点検・評価を行い、その経過及び結果をまとめる。

- 2 実施委員会が実施した自己点検・評価は、各学部教授会又は大学院研究科会議での審議を経て、運営委員会及び事務局に報告する。

(事務局)

第 6 条 事務局は、運営委員会の基本方針に基づき、実施委員会からの報告及び自らの活動について、自己点検・評価ノートを活用した全学的な観点による自己点検・評価を行い、その経過及び結果を事務局が所管する委員会等での審議を経てとりまとめ、実施部会に報告する。

2 事務局は、実施委員会と連携してそれぞれの長所・特色や問題点を明らかにし、改善・向上に向けて全学的な観点による年度の適切な目標等を設定した上で、評価の視点及び根拠に基づいた達成度評価を行う。

(自己点検項目)

第7条 基本的な自己点検項目は、次のとおりとする。

- (1) 大学の理念及び各組織の目的に関する事項
- (2) 内部質保証に関する事項
- (3) 教育研究組織に関する事項
- (4) 教育課程・学習成果に関する事項
- (5) 学生の受入れに関する事項
- (6) 教員及び教員組織に関する事項
- (7) 学生支援に関する事項
- (8) 教育研究等環境に関する事項
- (9) 社会連携及び社会貢献に関する事項
- (10) 管理運営、事務組織及び財務に関する事項
- (11) その他必要な事項

2 前項に規定する項目の追加は、運営委員会において行う。

(自己点検・評価報告書の公表)

第8条 学長は、運営委員会が取りまとめた自己点検・評価報告書を毎年度公表しなければならない。

2 公表の方法及び内容は、運営委員会の審議を経て、学長がこれを決定する。

(結果等の活用)

第9条 学長、事務局及び各学部・研究科の長は、毎年度作成する自己点検・評価報告書及び認証評価機関の評価結果を有効に活用し、改善が必要と認められるものについては、自己点検・評価ノートに年度の適切な目標等を設定した上で、その改善と質の向上に努めなければならない。

(庶務)

第10条 運営委員会の庶務は、総合企画部が処理する。

2 実施部会の庶務は、別表1の取りまとめ事務局が処理する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

附 則

- 1 この規程は、平成16年5月26日より施行する。
- 2 鹿児島国際大学自己点検・評価委員会規程(平成7年1月31日制定)は廃止する。
- 3 この規程は、平成19年7月25日より施行する。
- 4 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、平成28年5月25日から施行する。
- 6 この規程は、平成29年1月25日から施行する。
- 7 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 8 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 9 この規程は、令和2年10月1日から施行する。

別表 1 (第 4 条, 第 10 条関係)
(自己点検・評価実施部会)

実施部会	認証評価機関の基準	関係事務局	構成員	取りまとめ事務局
企画部会	1. 理念・目的 2. 内部質保証 5. 学生の受け入れ	企画・国際課 入試・広報課 教務部 研究教育開発センター 法人本部総務企画部	各研究科長 各学部長 ◎総合企画部長 総合企画部次長 教務部長 教務部次長 研究教育開発センター長 研究教育開発センター次長 法人本部総務企画部長	総合企画部
総務部会	8. 教育研究等環境 10. 大学運営・財務	総務部 研究教育開発センター 教務部 図書館 情報処理センター 企画・国際課 法人本部経理部	◎総務部長 研究教育開発センター長 研究教育開発センター次長 教務部長 教務部次長 図書館長 図書館次長 情報処理センター所長 総合企画部長 総合企画部次長 法人本部経理部長	総務部
教育研究部会	3. 教育研究組織 6. 教員・教員組織	研究教育開発センター 教務部 総務部 産学官地域連携センター 地域総合研究所 企画・国際課	◎研究教育開発センター長 研究教育開発センター次長 教務部長 教務部次長 総務部長 各研究科長 各学部長	研究教育開発センター
教務部会	4. 教育課程・学習成果	教務部 研究教育開発センター 企画・国際課 就職キャリアセンター 産学官地域連携センター	各研究科長 各学部長 各学科長 ◎教務部長 教務部次長 研究教育開発センター長 研究教育開発センター次長	教務部
学生支援部会	7. 学生支援	教務部 学生部 就職キャリアセンター 企画・国際課	◎学生総合支援センター長 学生総合支援センター次長 教務部長 教務部次長 学生部長 学生部次長 就職キャリアセンター所長	学生部
産学官地域連携部会	9. 社会連携・社会貢献	産学官地域連携センター 地域総合研究所 企画・国際課 図書館 教務部 研究教育開発センター	◎産学官地域連携センター長 産学官地域連携センター次長 地域総合研究所長 地域総合研究所次長 就職キャリアセンター所長 総合企画部長 総合企画部次長	産学官地域連携センター

(注) ◎は部会長。

大学等名	鹿児島国際大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	鹿児島国際大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 6 年度

取組概要

●プログラムの目的

本学学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させることをプログラムの目的とする。

●身に付けられる能力

- ① AIおよびデータサイエンスについて説明することができる。
- ② データを正しく読み、科学的に説明することができる。
- ③ スプレッドシートを使ってデータを加工しながら科学的に扱うことができる。
- ④ AIを扱う上での留意事項を理解できる。
- ⑤ データを扱う上での留意事項を自分事として理解できる。

●修了要件

「データサイエンス・AI入門」及び「情報処理」の計4単位を修得すること。

●開講されている科目の構成

① データサイエンス・AI入門（2単位、必須）

「問題解決の道具として数理・データサイエンス・AIの重要性は増してきている。データサイエンス・AIの基本的な知識や初歩的な数理的思考を身につける。」

② 情報処理（2単位、必須）

「ワープロソフトと表計算ソフトの基礎的な知識とそれらを使うためのスキルを身に付けた上で、実データを使って表やグラフを作成・分析する」

③ 確率と統計（2単位、選択）

「データの要約や解釈に用いられる統計学の基本的な考え方と、その背後にある数学的な枠組み（確率論）について学ぶ。」

●実施体制

科目「データサイエンス・AI入門」又は「情報処理」を担当する専任教員数名からなる担当者会議がプログラムを推進する。プログラムの運営責任者である学長のもと、数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会（委員長：副学長）を開き、運営・改善・進化を図る。自己点検・評価運営委員会（外部委員を含む）の意見を踏まえ、プログラムの評価・改善を行う。事務局は、研究教育開発センター及び企画・国際課が担当する。